

講義名	心理学実験演習					授業形態	
担当教員	池田 曜子／銅直 優子／福田 哲也／ 吉村 典子		開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限／後期 金曜日 2時限			
			単位数 4	履修開始年次 2年生	ナンバリング・コード		

主題と概要

の演技は、観察、実験、調査、面接から得られたデータを分析することによって、人間の心理を正確に理解することの過程である。この過程では、実験、観察、調査を適切に行い、それらの報告書あるいは理論実験レポートの作成が求められる。

第2課題は、観察と実験の両方を用いるミュラーリリーの視知覚の錯覚である。ミュラーリリーの視知覚は錯覚の一種である。観察に使用された矢印の角度により、この錯覚が生じるように調整することが可能である。この錯覚から、使用された観察者の視線を導くことができる。

この課題から、観察と実験の両方を用いて、人間の心理の無意識の行動に気づく方法を学ぶ。この課題から、実験観察の内容とその程度日常生活にあてはめられるのかという研究の外的妥当性の考えを学ぶ。

第3課題は、観察と使用した調査である。私たちは、常にどこにもいる人の表情や行動を観察することから、同僚性や心理状態を推測している。本課題では、観察法という研究の基本と、行動観察によるデータの収集と分析、およびリアルタイム作成について、観察とフィールドワークを統合することによって学ぶ。

第4課題は、顔に似た形状を無意識がどのように観察する能力に、知覚運動統合の成立過程を確認することである。片方の手の指輪がもう一方の手の運動に効果があるかを検証し、両側性転移について学ぶ。

第5課題は、印象形成過程の調査である。化粧に用いる色によって人の印象はどのように変化するかにについて実験的に調査を行っている。

第6課題は、顔の印象形成についてである。顔の印象形成は、顔の印象形成は、単純に色と色と組み合わせる時間がかかる。この現象をスループール効果と称する。この現象をスループール効果の実験として学ぶ。

到達目標

- ①心理学的現象を科学的に証明するための実験・調査手法を理解することができるようになる。
- ②実験・調査のデータが分析できるようになる。
- ③Excelを使用し、表やグラフを作成することができるようになる。
- ④実験や調査結果をもとに報告書を作成することができるようになる。

提出課題

授業中におこなった実験・調査に関する報告書を最終レポートとして提出してもらう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

レポートとして提出された実験・調査に関する報告書は添削し、修正点等のフィードバックが行われる。

評価の基準

受講内での実験取り組みの態度や理解度 (50%)
最終レポート (50%)

履修にあたっての注意・助言他

毎回の出席と6種類の実験のレポート作成が必須となる。
1回でも欠席する（遅刻の場合は15分未満3回）と、レポートの作成が困難になるため、原則、遅刻・欠席をしないように気をつけること。
レポートをすべて提出していても、点数が60点以下の場合は単位取得はできない。
なお、この科目は認定心理士資格取得の必修科目である。
資格申請時には、実習リストの提出が求められる。

教科書

、使用しない。				

参考図書

なし。				

その他

プリント資料を授業中に配付

授業計画

- 実験レポートの書き方とミューラー-リウの観測に関する講義、実験の実施 (担当：福田)
- 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (240分)
- 1 実験データの作成 (担当：福田)
- 1 復習内容：既習資料を学習済みまでに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
- 2 実験内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 2 実験データの分析 (担当：福田)
- 2 復習内容：既習資料を学習済みまでに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
- 3 ストループ効果実験の説明、実験の実施 (担当：岩村)
- 3 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 3 実験データの整理、実験データの分析 (担当：岩村)
- 3 復習内容：既習資料を学習済みまでに熟読し、理解できない部分を明確にし、受講時には不明な部分について質問ができるようにしておくこと (60分)
- 4 ストループ効果実験のデータ作成 (I) (実験レポート作成 (I)) (担当：岩村)
- 4 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 4 実験レポートの作成 (II) (実験レポート作成 (II)) (担当：岩村)
- 4 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 5 講義「印象評価」の理解と評価用紙の作成、印象評価調査とデータの入力 (担当：廣瀬)
- 5 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 5 データ解析と結果の整理、データ解析結果の理解と結果の記述 (担当：廣瀬)
- 5 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 6 レポート作成について (担当：廣瀬) 心理科学研究法としての観察法の特徴 (担当：池田)
- 6 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 6 観察調査/調査データの入力 (担当：池田)
- 6 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 7 調査データの分析、調査レポートの作成 (担当：池田)
- 7 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)
- 7 調査データの分析、調査レポートについて (担当：池田)
- 7 復習内容：講義内で指示のあった部分についての文読解までに行作業を完成させる (180分)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目録①②③④を達成することで、DP1の「社会の仕組みや働き、日常生活文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる」に貢献できる。
目録①②③④を、よりよい人間社会を創造することには直接的に貢献しない。
目録①②③④を達成することで、DP2の「実際の社会生活や課題、ビジネスに実務的に活用することができ、能力となる」に貢献できる。
目録①②③④を達成することで、DP1の「心理学の研究方法に関する基礎的知識を身につけ、さまざまな場面に関連する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業は実施しない。

実務経験の有無及び活用

備考